TOTTORIKEN TOTTORISI
鳥取県鳥取市

ENNOYAMA GOU FUN
# 縁山４号墳発掘調査報告書

2004

鳥取市教育委員会

縁山４号墳発掘調査報告書
二〇〇四
鳥取県鳥取市教育委員会

# 序　　文

高度成長期を経て安定成長期を迎えている現代社会は、文化・文化財の重要性が強く認識され、原因の如何を問わず各地で発掘調査が実施され、貴重な調査資料が提供されています。

福部村でも、多くの文化財が所在していることから度々発掘調査が実施され、原始古代の人々が力強く生活を営んだ証と共に、新たな発見も相次いで報告されました。

このような調査の積み重ねが、近年の頻度の高い開発から埋蔵文化財を保護し、先人から私たち現代人が継承した文化を検証する基礎となることについて意義深いものを感じています。

今回発掘調査は、昨年実施した国道９号バイパス建設予定地の試掘調査結果を受けての発掘調査でしたが、市町村合併が間近に迫り、福部村として最後の発掘調査となりました。これらの報告を含めて貴重な文化遺産を市町村合併後の新市に漏れなく引き継ぐ事も重要な責務であるとの思い強く抱いています。

終わりに、今回の発掘調査事業を実施するにあたり、鳥取県教育委員会をはじめ、関係各位の多大なるご指導、ご協力に対し深甚なる感謝を捧げるとともに、発掘調査に従事していただいた皆様に対し厚く御礼申し上げ、発刊のご挨拶といたします。

平成16年11月

(元) 福部村教育委員会
教育長　老　門　辰　生

# 例　　言

1．本書は、福部村教育委員会が調査主体となり、2004（平成16）年度に国土交通省と発掘調査委託契約を締結し発掘調査を実施した「縁山４号墳発掘調査報告書」である。

2．発掘調査の対象となった縁山４号墳は、鳥取県岩美郡福部村大字湯山（ゆやま）字白路ヶ山（しらじがやま）に所在する。

3．発掘調査の体制は下記のとおりである。　　敬称略

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 調査団長 | 老門辰生 | （元）福部村教育委員会教育長 | | | |
| 調査指導 | 鳥取県教育委員会 | | | | |
| 調査員 | 谷岡陽一 | （元）福部村教育委員会発掘調査員 | | | |
| 作業員 | 秋山光輝 | 浅間　樹 | 浅間良祐 | 杉本千恵子 | 田中　勇 |
| | 田中　学 | 谷本弘司 | 元谷直生 | 仲谷昌哲 | 西村貴美恵 |
| | 林　幸男 | 藤本　雅 | 松本昭子 | 山根徳之 | 吉田智晃 |
| | 和田　保 | | | | |
| 事務担当 | 北村重政 | （元）福部村教育委員会社会教育係長 | | | |

4．本書に使用した挿図の方位は磁北であり、標高は東京湾潮位を基準としている。

5．本書に掲載した挿図３の地形図は、「国土交通省鳥取河川国道事務所」から提供していただいた馴馳山地区平面図1000分の１を縮小複製したもので、挿図４、挿図６の地形図は調査員監督の基に「㈱アイテック」に測量委託して作成した地形測量図100分の１を縮小複製したものである。

6．本書の執筆編集は、鳥取県教育委員会の指導のもとに谷岡陽一が行った。

7．出土遺物・図面・写真等の整理は、調査員が行った。

8．出土遺物・実測図等は鳥取市教育委員会で保管している。

9．出土遺物には、〔例：ＥＮＹ4-04-3（縁山４号墳－調査年度－遺物番号）〕をネーミングしている。

10．福部村は平成16年11月１日付で鳥取市に編入合併した。その結果本報告の編集は合併前に行っていたため、その一部について〔福部村〕の表記であることを了解していただきたい。

11．発掘調査及び本報告書の刊行に際し、次の方々からご指導、ご援助をいただいた。銘記して感謝申し上げます。

赤木三郎（鳥取大学名誉教授：地学）
澤田むつ代（東京国立博物館文化財部保存修復課環境保存室長）
根鈴輝雄（倉吉博物館学芸員）
森田純一（用瀬町教育委員長職務代理）
平野芳英（島根県立八雲立つ風土記の丘資料館）
前田章吾（国土交通省鳥取河川国道事務所）
松田　繁（鳥取県埋蔵文化財センター）

# 目　　次

巻頭図版
序　　文
例　　言
本文目次・挿図目次・図版目次

第Ⅰ章　調査に至る経緯 …… 1
　第１節　調査の経緯 …… 1
　第２節　調査の経過 …… 1
第Ⅱ章　遺跡の位置と環境 …… 2
　第１節　遺跡の位置と自然的環境 …… 2
　第２節　歴史的環境 …… 4
第Ⅲ章　縁山４号墳とその周辺 …… 5
第Ⅳ章　発掘調査の概要 …… 7
　第１節　発掘調査の概要 …… 7
　第２節　墳丘 …… 7
　第３節　周溝 …… 7
第Ⅴ章　出土遺物 …… 12
第Ⅵ章　縁山４号墳発掘調査の成果 …… 13
報告書抄録 …… 15
図　版

# 挿　図　目　次

挿図１．福部村位置図 …… 2
挿図２．福部村内遺跡分布図 …… 3
挿図３．縁山４号墳位置図 …… 5
挿図４．縁山４号墳地形実測図 …… 8
挿図５．縁山４号墳墳丘土層断面図 …… 9
挿図６．縁山４号墳墳丘遺存図 …… 11
挿図７．出土遺物 …… 12

# 図　版　目　次

図版１．①調査地全景（北から）
②調査前の縁山４号墳
③縁山４号墳より西方の鳥取砂丘を望む
図版２．①縁山４号墳（東から）
②縁山４号墳（北から）
③縁山４号墳（西から）
④縁山４号墳周溝完掘状況（北から）
図版３．①縁山４号墳東周溝面と土層堆積状況
②縁山４号墳北周溝面と土層堆積状況
③縁山４号墳北西周溝面と土層堆積状況
④縁山４号墳西周溝面と土層堆積状況
図版４．①縁山４号墳陸橋部（北西）
②出土遺物検出状況（墳丘中央）
③周溝内砥石検出状況
④昭和30年に発掘された縁山古墳の蓋石
図版５．①縁山４号墳出土遺物（須恵器）
②縁山４号墳出土遺物（刀子）
③縁山４号墳出土遺物（砥石）
図版６．①縁山２号墳主体部（昭和30年発掘状況）
②縁山２号墳出土の鉄刀（昭和30年出土）
③縁山２号墳出土の鉄刀に巻かれた織物
④縁山２号墳出土の鉄刀に巻かれた織物（拡大）

# 第Ⅰ章　調査に至る経緯

## 第１節　調査の経緯

国・地方自治体では道路網の整備を重要な課題として取り組んでいる。そんなおり国土交通省鳥取河川国道事務所では、山陰地方の動脈となっている「国道９号駟馳山バイパス工事」を計画した。

同計画は、現在福部村湯山まで供用開始している国道９号鳥取バイパスを更に延長して、本村東端の駟馳山をトンネルで貫通し、隣町の岩美町まで至る延長６．６㎞の「駟馳山バイパス」となるものである。
国土交通省鳥取河川国道事務所は、この計画路線内に所在する埋蔵文化財の有無について、福部村教育委員会に協議依頼書を提出した。

協議の結果、福部村教育委員会が調査主体となり、平成10年度調査で未確認となっていた直浪遺跡の東端部及び縁山古墳群が所在する丘陵梨園地内の試掘調査を実施した。その結果、直浪遺跡の東端部で古墳時代以降の遺物が出土することを確認したが、小丘陵の縁山地区では調査承諾の得られなかった丘陵頂部の梨園内を除く３カ所の試掘トレンチ調査では遺構、遺物ともに検出されなかったことが報告されている。(註1)

更に平成15年度には、国土交通省による国道９号駟馳山バイパス建設予定地の用地買収を待って、福部村教育委員会が国・県の補助を受け、前述の発掘調査で調査承諾の得られなかった丘陵頂部を中心とする試掘調査を実施した。その結果今回の発掘調査対象地区で古墳の周溝を確認したことが報告されている。(註2)

註１　福部村教育委員会『村内遺跡発掘調査報告書』2001
註２　福部村教育委員会『村内遺跡発掘調査報告書』2004

## 第２節　調査の経過

鳥取県教育委員会と福部村教育委員会では、この試掘調査結果を基に直浪遺跡の東端部及び縁山地区に所在する古墳の保護について国土交通省鳥取河川国道事務所と協議を行った。

その結果、直浪遺跡の東端部については、盛土施工から橋脚工法の施工に変更したことで、遺跡への掘削等は行わないことから、遺跡は保護されることが確定した。しかし、縁山地区に所在する古墳については、大幅な切土による掘削から免れないことが明らかとなり、当古墳を縁山４号墳として登録し、記録保存を前提とした発掘調査を行うことになった。

発掘調査は、縁山４号墳が所在する丘陵地の800㎡を対象に実施し、国土交通省の委託により福部村教育委員会が受託して発掘調査を実施することになった。

現地での発掘調査は、６月８日から実施し、梅雨時の天候を危惧したが好天に恵まれたことから予定どおりの進捗状況をみせ、７月16日で、現地での発掘調査を完了し、11月30日で室内整理作業を完了した。

縁山４号墳発掘調査風景

# 第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

## 第１節　遺跡の位置と自然的環境

福部村は鳥取県の東部で、東経134度14分～東経134度20分、北緯35度29分～北緯35度34分の間に位置している。北は砂丘が日本海に面し、東は日本海に突出した独立峯のような駟馳山山頂から、南に延びる立岩山山系の分水界で岩美町に接している。西は国の天然記念物に指定されている鳥取砂丘から摩尼山山系の分水界で鳥取市に接し、更に南東の稲葉山に至り、稜線を縦貫する村道宇倍野線を界して国府町に接している。

この東・西・南の三方を山系に囲まれた内陸は、日本海沿岸に発達した砂丘が湾口を閉ざし、東西約９km、南北約10km、総面積34.94km²で、日本海に開けたＶ字形を呈する沖積平野の小盆地地形を形成している。村内には、鳥取県の縄文遺跡を代表する「直浪（すくなみ）遺跡 (2)」・「栗谷（くりたに）遺跡 (3)」をはじめ、16遺跡と200基を越える古墳が確認されており[註1]、往古から人の暮らしを印象付ける地域である。

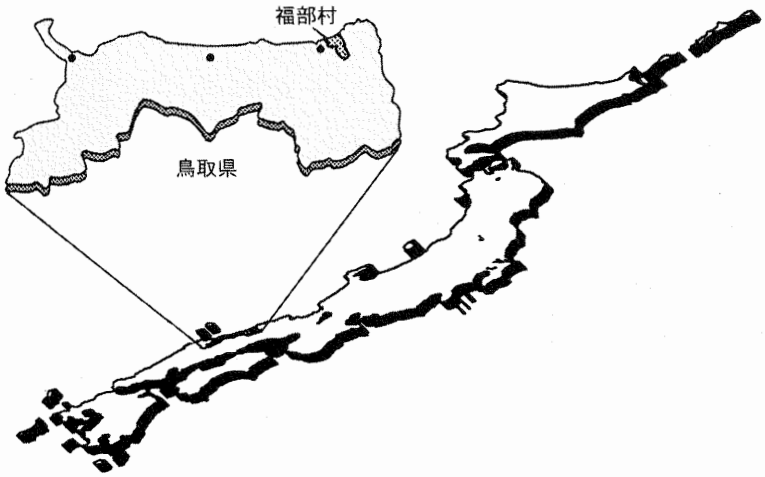
遺跡と密接な関係を持つ河川は、鳥取市、岩美町、国府町との境を接する「上野山」（標高390m）を主峰に分水界となって本流の塩見川を形成し、摩尼山山系の山麓を水源とする箭渓川、同じく摩尼山山系山麓の水源と旧湯山池周辺の湧水を水源とする江川の３河川が主要な２級河川である。この３河川は、旧細川池と呼ばれる湿田部で合流し、鳥取砂丘の河口へ注いでいる。

直浪遺跡は、日本海沿岸の東西に細長く延びる国立公園鳥取砂丘に包括される福部砂丘の南端後背地に位置し、遺跡の中心部と推定されているこの付近は、緩斜面を削平して低段丘上に畑地が営まれ、果樹と蔬菜が栽培されている。

遺跡の南に広がる旧湯山池の対岸には、幾重にも延びる支稜線端部には、数多くの古墳が存在し、塩見川を介した対岸の通称「蔵の山」と呼ばれている支稜線の先端部一帯は、「箭渓（やだに）古墳群」の中核となっている。

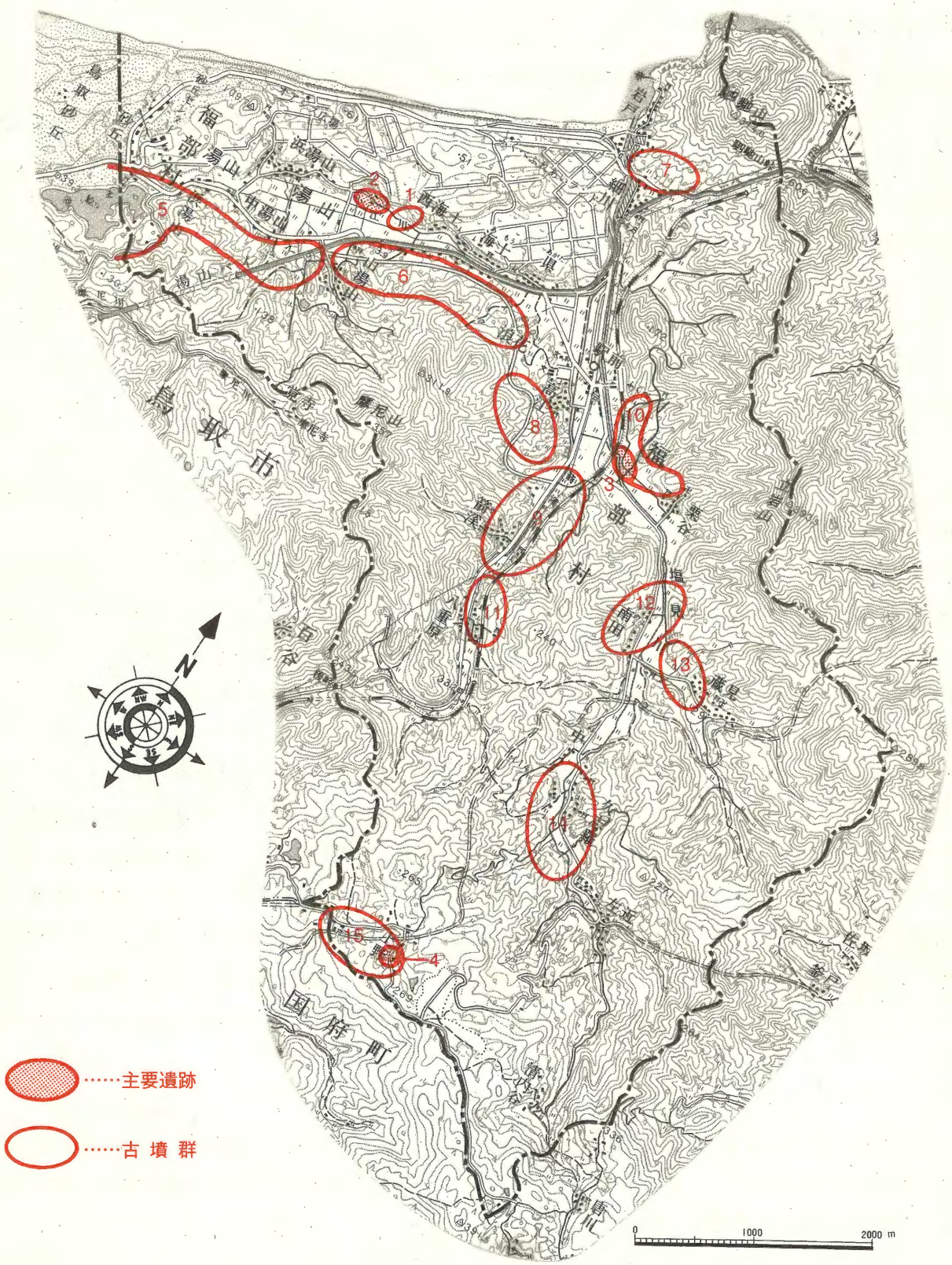
このように、湖畔を見下ろす丘陵上に展開する古墳群の所在は、県東部の湖山池、県中部の東郷池のように、湖畔に突き出た丘陵上に展開する古墳群の形態と共通している。

この旧湯山池、旧細川池湖岸で人の生活が営まれ始めたと推定される縄文時代前期は、いわゆる縄文海進によって現在の平野部の大半が日本海に没し、島根県の宍道湖のように海水と淡水が交じり合う汽水湖であったと考えられている。人々はこの福部の地一帯で狩猟、採集、魚撈を糧とする生活を送っていたものと考えられ、縄文時代・弥生時代・古墳時代と永期にわたり、同じ場所での生活が営まれていることは、この外海に通ずる入り江を拠点とした舟による海上交易の利便性も大きな要因を占めていたものと思われる。




挿図１．福部村位置図

註１　福部村教育委員会『福部村内遺跡発掘調査報告書』1995




**挿図２．福部村内遺跡分布図**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1．縁山古墳群 | 2．直浪遺跡 | 3．栗谷遺跡 | 4．上野遺跡 | 5．湯山古墳群 |
| 6．海士古墳群 | 7．細川古墳群 | 8．高江古墳群 | 9．箭渓古墳群 | 10．栗谷古墳群 |
| 11．八重原古墳群 | 12．南田古墳群 | 13．蔵見古墳群 | 14．久志羅古墳群 | 15．上野山古墳群 |

## 第２節　歴史的環境

福部村内では、旧石器時代の遺構・遺物は発見されていないが、直浪遺跡が縄文時代中期を主体とする遺跡で７次に渡る発掘調査が実施されている。次いで縄文時代中期末から後期初頭を主体とするのが栗谷遺跡で、ドングリ・クルミ、トチの実などを貯蔵した37基の貯蔵穴群と土器・石器の他、木器・網代編みの籠・もじり編み技法による網などが低湿地遺跡特有の良好な遺存状態で出土し、当該期の生活様式を知ることのできる貴重な資料として平成６年に『重要文化財』に指定されている。

近隣では、福部砂丘に境を接する浜坂砂丘の中で「浜坂追後遺跡」・「長者ケ庭遺跡」・「栃木山遺跡」が縄文時代の遺物散布地として知られ、この他湖山池の南岸に所在する「布勢遺跡」では、土器・石器・木器などが多量に検出され、更に西方に隣接する「桂見遺跡」では、縄文時代後期の丸木舟も出土している。

因幡地方で確認されている縄文時代の主要遺跡は、そのほとんどが湖岸のような水辺の畔を拠点しているが、近年の発掘調査で岡山県境に近い山間地の智頭枕田遺跡でも集落遺跡の存在が明らかになっている。

弥生時代になると稲作が普及し、種々の石器の他に金属器の使用が始まり、隣接する岩美町新井の丘陵部では流水文銅鐸が出土し、浜坂砂丘や湖山砂丘では、銅鏃・鉄鏃も発見されている。

縄文時代に人々が定住した栗谷・直浪の両遺跡でも弥生時代の人々が継続して生活していたことが土器・石器などから明らかとなっており、塩見川の源流である上野山台地（標高250m）では、畑地の開墾時に弥生時代中期の土器・扁平片刃石斧などが採取されており、「上野遺跡(4)」の存在が確認されている。

上野遺跡はその立地条件から、低地に所在する栗谷遺跡、直浪遺跡とは異なった高地性集落遺跡としての検討も必要があると思われる。

次の古墳時代へ移行すると、共同体の高い地位にあった者の死にあたって、壮大な高塚を築き、多くの副葬品と共に手厚く埋葬する風習が広まる。ここ因幡地方にも畿内的な様相をおびた古墳が築造されている。

村内でも古くから小規模ながら数多く古墳が確認されており、200基を越える古墳が12群にまとめられている。墳丘の形態は前方後円墳・方墳・円墳・横穴と多形式に渡るが、その大半はラグーンを見下ろす丘陵の尾根に分布しており、後期古墳に見られる横穴式石室は、平野部から山間部に分布する特徴を示している。

村内における古墳の発掘調査は、その大半が開発行為に伴う調査であり、「湯山６号墳」では小札（こざね）を柊（ひいらぎ）の葉状にカットした特異な「小札鋲留眉庇付冑」、「三角板革綴短甲」、「鉄刀」、「鉄鏃」等の武具がセットで副葬されていた[註2]。また「蔵見３号墳」では、全国的に類例の少ない変形八角形の平面プランを持つ墳丘と、因幡地方に多く分布する中高式天井石室型式の横穴式石室で、類例の無い鴟尾付陶棺が検出されている[註3]。

遺跡の発掘調査例では、直浪遺跡の丘陵台地で採砂作業中の工事関係者によって「柱穴群」が発見され、発掘調査の結果、５世紀から６世紀に渡り継続的に居住したと推定される竪穴式住居跡（１棟）・掘立柱状建築遺構（３棟）が検出されている[註4]。

古代に律令制が確立された時期には、福部村一帯は、因幡国法美郡服部郷に属しており、海士と八重原には、式内社があった。隣町の岩美町では国の史跡指定となっている白鳳期の岩井廃寺塔跡も遺存し、上野山を越した国府町中郷には因幡の国府が置かれ、以後こ地域が政治・経済・文化の中心地として繁栄して行く。

註１．福部村教育委員会『栗谷遺跡発掘調査報告書Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』1989・1990
註２．福部村教育委員会『湯山６号墳発掘調査報告書』1978
註３．福部村教育委員会『蔵見古墳群発掘調査報告書』1997
註４．福部村教育委員会『直浪遺跡発掘調査報告書』1976

# 第Ⅲ章　縁山４号墳とその周辺

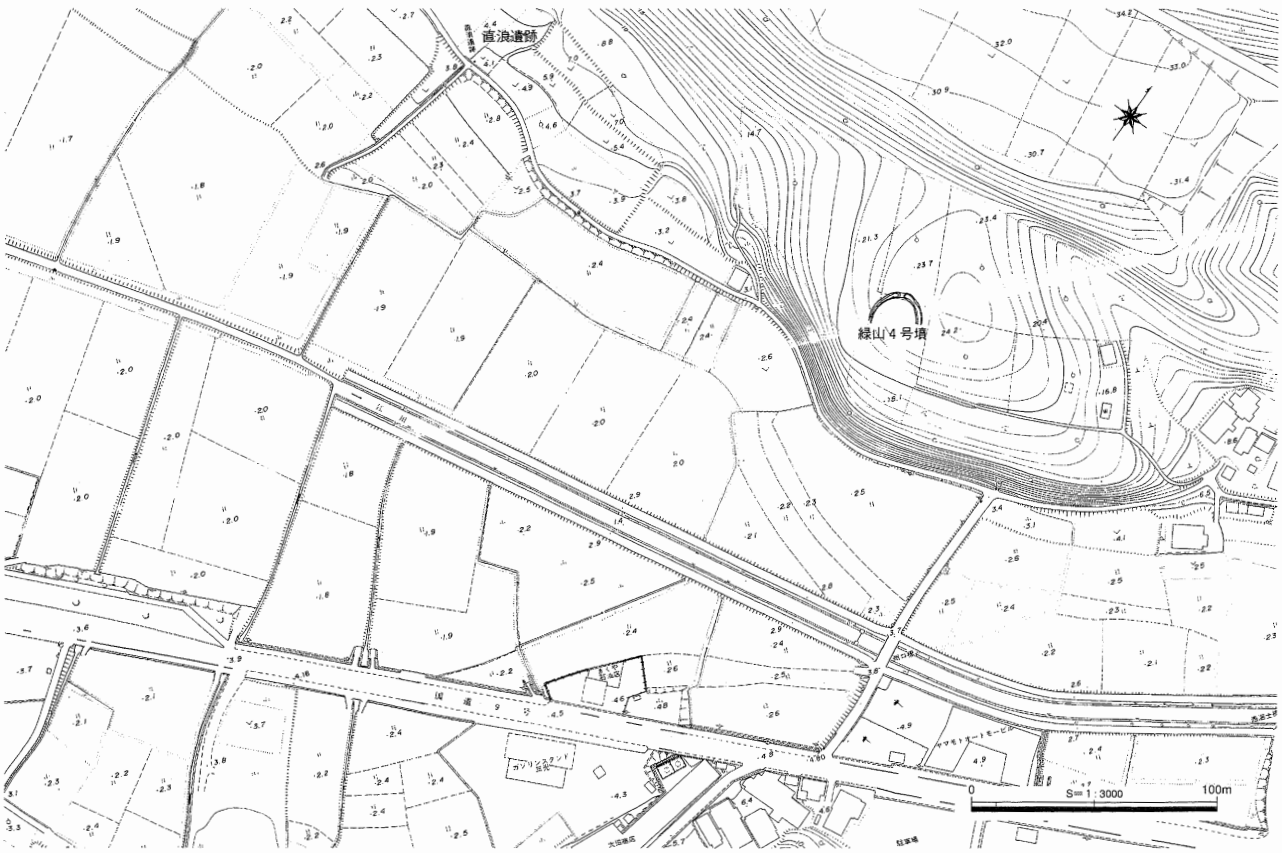
縁山４号墳は、鳥取砂丘の後背地で標高24m程度の小丘陵で、丘陵南横切る国道９号との比高差は約19mを測る大字湯山字白路ヶ山に所在し、往古より地元民からは通称：縁山（えんやま）と呼称されている（以後縁山と呼称する）。

縁山丘陵の北面は砂丘が厚く堆積し、南側はラグーンの名残である湯山池が間近に迫り、東は大字海士（あもう）の集落が国道９号に沿って細長く形成され、西は縄文時代中期を主体とする直浪遺跡に隣接している。

この直浪遺跡は、昭和21年の湯山池の干拓工事に際し、埋土として砂丘の採砂工事が行われ、多量の縄文土器・石器が発見されたことから遺跡の存在が明らかとなっている。この発見を契機に砂丘遺跡の研究とその重要性が認識されて、昭和30年に「福部村教育委員会による遺跡の保存研究調査」が行われ、昭和42年には「帝塚山大学考古学研究室による発掘調査」が行われている。更に、昭和51年に西の段丘状の頂部で、古墳時代後期の柱穴群が発見され、「福部村教育委員会による緊急発掘調査」、昭和56年には「文化庁による遺跡保存方法の検討調査」が行われている。

最近の調査では、平成５年、平成10年に福部村教育委員会が直浪遺跡の性格とその範囲を求めることを主目的に、国、県の補助を受けて発掘調査を実施し、出土遺物の状況から遺跡の南端、西端を確認している。

この６次に渡る発掘調査では、縄文時代中期を主体とする土器、石器、弥生時代の土器、石器、古墳時代以降の遺物が多量に出土している。しかし、縄文時代、弥生時代の出土遺物包含層を確認しているものの、人の営みを直接的に結び付ける遺構等が検出されないことから、遺跡の主体となる縄文時代、弥生時代の住




挿図３．縁山４号墳位置図

居跡等は、北に厚く堆積した砂丘下に所在する可能性が報告されている。

当縁山丘陵部一帯で梨栽培が行われており、昭和30年に耕作者によって施肥穴を掘り下げ中、地中下約40cmに開けられてていた石棺の一部を発見したことが契機となって古墳の所在が明らかとなっている。古墳発見の知らせを受けた福部村教育委員会教育長から鳥取大学に報告され、当時の鳥取大学学芸学部歴史学研究会の学生によって棺内部の発掘調査が実施されている。次いで同年度内に２基の古墳が相次いで同様形態で発見されて、いずれも鳥取大学学芸部の学生によって棺内部の発掘調査が実施され、数多くの副葬品と人骨が検出されおり、発見順の縁山１号墳から３号墳に振り分けられて、鳥取縣東部に於ける古墳調査報告として報告されている[註1]。また、貴重な報告であることから「ひすい」（１～100号）にも転載されている[註2]。

この報告では、縁山３号墳については詳細な報告はされていないが、１号墳は主軸を東西にとり、下位に板石を立てその上位に割石を横積みにした竪穴石室のようである。内法の長さは229cm、幅は東壁幅100cm、西壁幅60cmと極端に狭くなっているが、南東の壁付近で脚部の人骨を確認していることから頭位は西のようである。また石室床面から天井までの高さについて軸線上の東で約80cm、西で40cm、東壁から西壁方向へ120cmのところで北壁側90cm、南壁側40cmを測り石室内がかなり傾斜していることが報告されている。出土遺物は蓋坏が西壁と東壁でそれぞれ４セットが出土し、南西壁のコーナーで鉄族が３本の出土が報告されている。

縁山２号墳は、１号墳の北西約30mに所在し、地表下約1.5mで蓋石が検出され、棺外遺物として４セットの蓋坏が検出されている。主体部は典型的な大形の箱式石棺で、主軸を東西にとり、蓋石２枚の扁平で封棺され、棺内の内法は長さ185cm、幅75cm、高さ55cmである。側壁は扁平な板石を立てて組み合わせ、東西の小口石はぞれぞれ１枚の扁平石で構成されている。

棺内には、人骨が依存しており、人骨の胸部左脇に直刀１点、鉄族３点、右には直刀１点、刀子２点が置かれ、肢骨の間で鉄斧が出土している。

この内人骨の胸部左脇で検出さた直刀１点は、鳥取大学教育学部付属図書館で保管されており、木質鞘を織物で巻いていることが確認できる。（編集後記）その他の遺物は散逸して所在不明となっている。

これらの報告では、須恵器の器形等から古墳の築造年代を古墳時代後の期前半に位置づけている。

註１　鳥取大學學藝學部歴史學研究會『鳥取縣東部に於ける古墳調査報告』第一輯　年月日不詳
註２．佐々木古代文化研究室『ひすい』

**《参考文献》**

福部村教育委員会『直浪遺跡発掘調査報告書』（予報）　1956
福部村教育委員会『直浪遺跡発掘調査報告書』　1976
文化庁『遺跡保存方法の検討』－砂地遺跡－　1983
福部村『新編福部村誌』－原始－　2000

# 第Ⅳ章　発掘調査の概要

## 第１節　発掘調査の概要

直浪遺跡の東方に隣接する今回の発掘調査地区である縁山は、前述のとおり昭和30年に３基の古墳が農作業中の耕作者によって発見され、鳥取大学学芸学部歴史学研究会の学生によって主体部の石室内、石棺内部に限定した調査が行われている。この調査終了後は再び後埋め戻したとされているが、半世紀を経た現在では切り立った丘陵端部に蓋石が路頭している１基の古墳以外は、所在地の特定はできない。また、この１基の古墳が報告されているどの古墳に該当するのかも特定できない。

国道９号バイパスに係る発掘調査は、平成10・15年度に実施され、平成15年度の発掘調査結果では３ヶ所のトレンチで、古墳１基の周溝を確認したことが報告されている。(註1)

この発掘調査結果では、国道９号バイパス計画区の南に周溝の一部が特定できるもので、今回の発掘調査はこの調査結果をもとに、調査範囲を推定し、東西２本、南北１本の調査セクションを設定した。

調査は、調査区中央に東西ベルトを残し耕土の掘り下げから開始し、排土は５基のベルトコンベアと１台のクローラーを用いて調査区外へ排出した。

## 第２節　墳丘（挿図４）

縁山４号墳は、縁山の尾根中央頂部よりやや西に墳丘の中心部が所在し、平成15年度の試掘調査結果を基に墳丘の規模を推定してベルトを残して耕作土を除去すると、暗灰色を呈する平面円形状に巡る周溝面が確認された。

その結果、墳丘の約2/5程度が調査対象区外に所在し、墳丘上面は果樹園として耕作されていた事もあり、大きく削平をうけており、墳丘内に所在していたであろう主体部の痕跡も確認することができなかった。

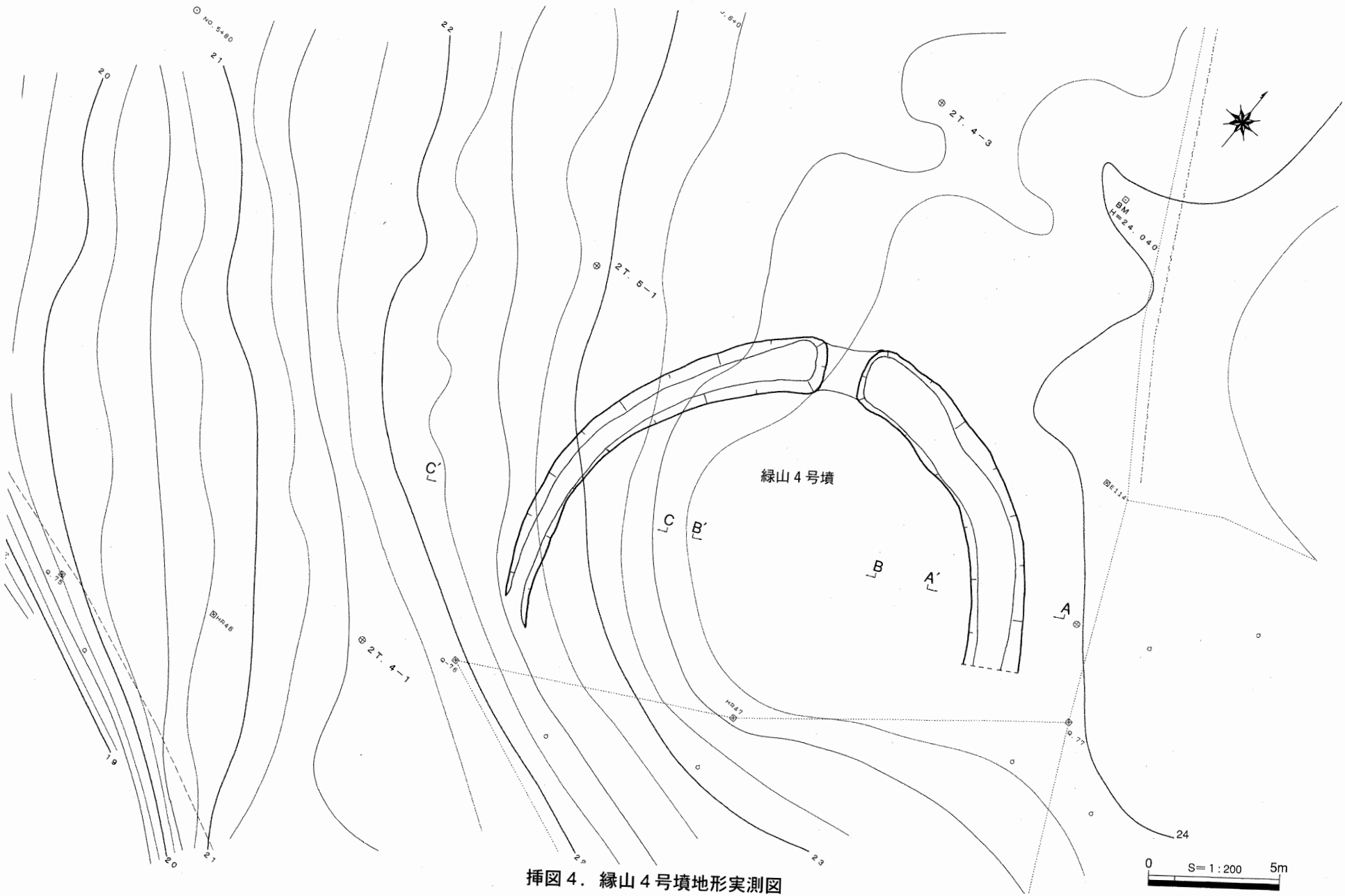
残存する墳丘の規模は、東西直径16.5m～17.0mを測り、現況の高さは丘陵の地形に沿って、特に西側が最も厚く削平されており測定に全らなかったが、墳丘の直径から築造当時はかなりの盛土が施されていたものと推定される。

墳丘からは、埴輪、葺石等の外表施設を示すものは検出されなかったが、削平された墳丘中央部で須恵器片が検出された。検出された須恵器片は坏蓋の天井部で、縁山４号墳の築造に伴うものと考えて良いと思われるが、削平された地山の上面であること、割片であることから元位置のものではなく、削平時に撹乱を受けているものと推定される。

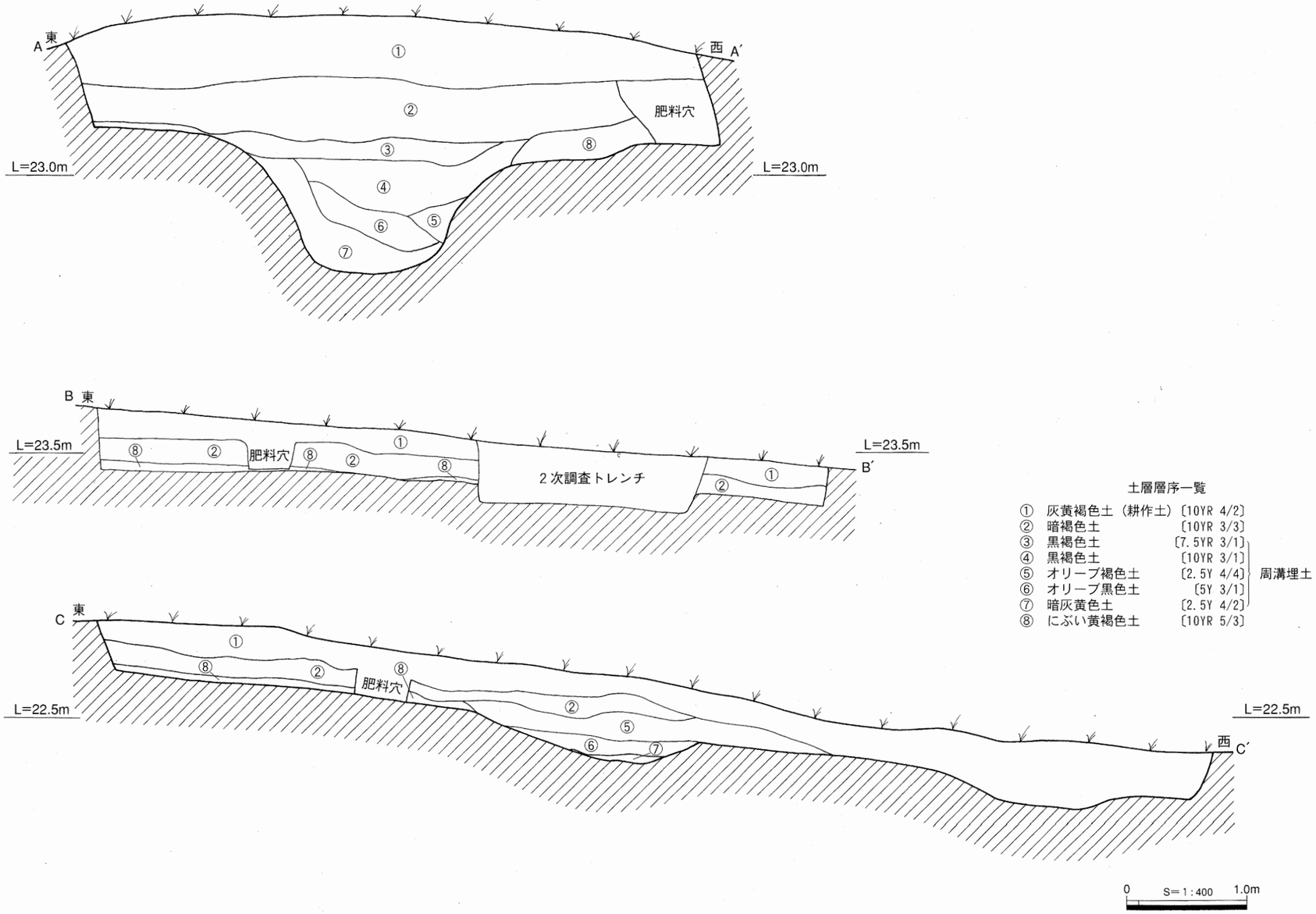
## 第３節　周溝（挿図５・６）

墓域を区画する周溝は、東側がほぼ完存しているが、西側に至るほど厚く削平されており調査対象の南西端部では、その痕跡も途切れる。残存する周溝外縁の直径は東西で20.0m、周溝底からの高さは最も良く残存する東側で1.20mを測る。西側は最も削平を受けているが、西側の末端部と東側の周溝底面はほぼ同レベルで墳丘を巡っている。残存する周溝の規模は最も良く残存する東側で幅2.5m、深さ1.15mを測る。

周溝の北西部分に幅2.2m～2.0mの堀残しがあり、墓域外との区画をつなぐを陸橋部と考えられる。
周溝断面の形態は幅広のU字形を呈し、底面はほぼ平坦である。



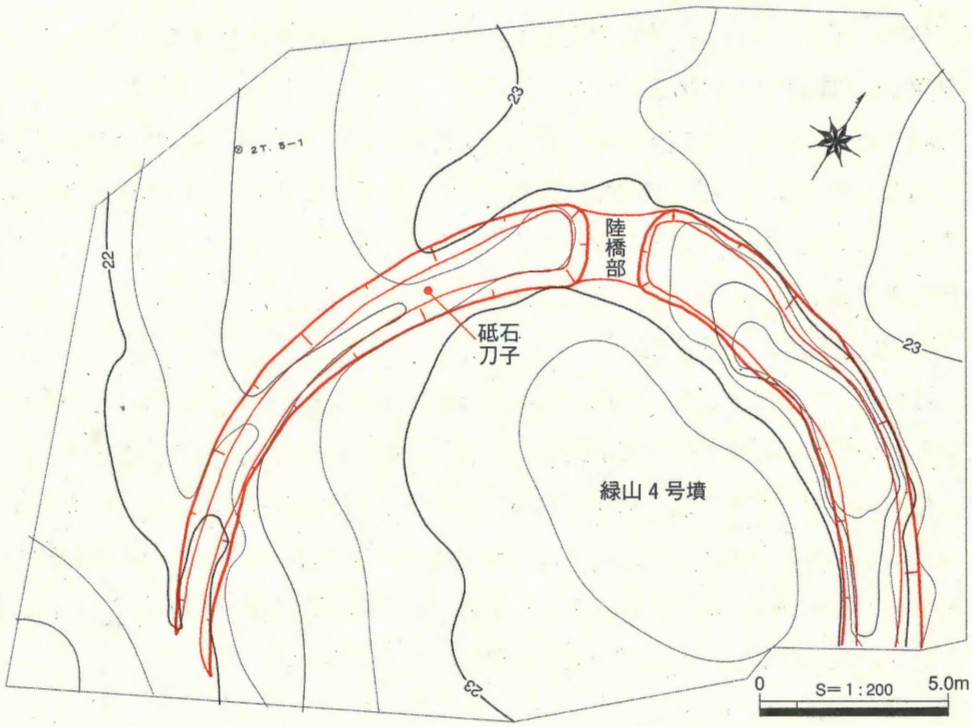

挿図４．緑山４号墳地形実測図




挿図５．縁山４号墳墳丘土層断面図

周溝内には築造後に流入したと定される３層から７層の腐植土が堆積しており、比較的長期間で埋没したものと推定される。

周溝内では、砥石と刀子が検出された。砥石と刀子は北西の周溝底面で検出され、刀子の上に砥石が置かれた状態で検出された。




挿図６．緑山４号墳墳丘遺存図

# 第V章　出　土　遺　物

## 出土遺物

出土遺物は極めて少なく、墳丘面中央部で検出された須恵器片と周溝内で検出された砥石、刀子である。

### 1．須恵器（挿図７．図版５）

（１）は須恵器の坏蓋が１点出土し、部位は天井部である。削平を受けていた墳丘中央部で検出され、破片であることから、口径、器高共に不明である。胎土は0.5mm～1.5mm程度の砂粒を含み、焼成は良好で、内面が暗灰色、外面は青灰色呈している。天井部内面に円弧叩きが残り、内外面共に反時計回りのヘラ削りの後ヨコナデを施している。

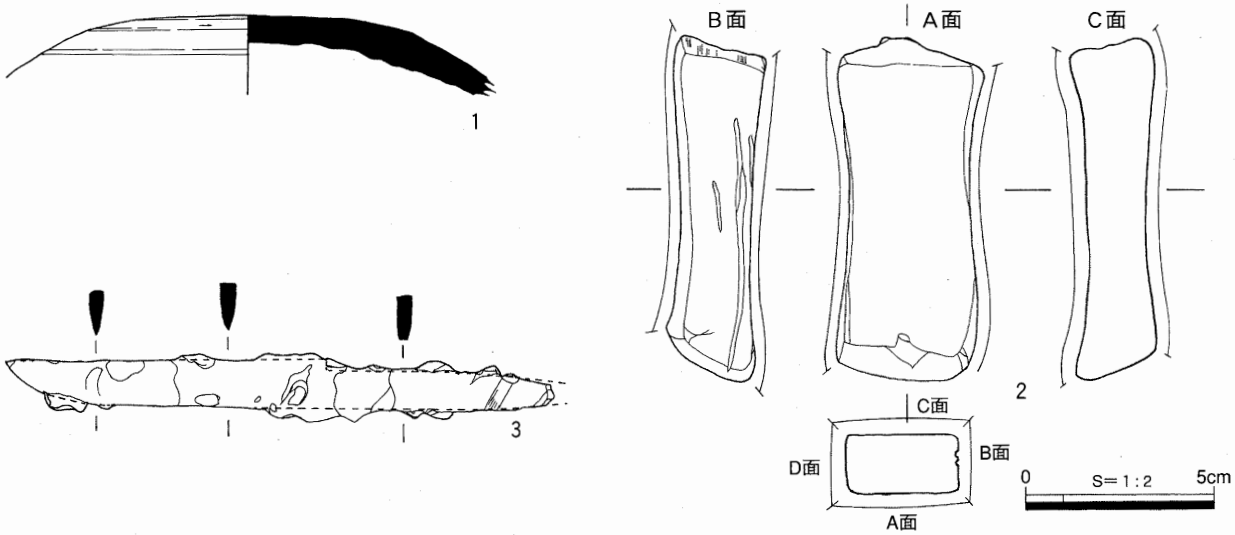
### 2．石　器（挿図７．図版５）

（２）は砥石で１点出土した。石材は安山岩の縦10.0cm、横4.0cm、厚さ2.2cmの長方形で４面を砥面としており、いずれの砥面も中央部が極端に摩耗し、継続的に使用されたことを示してる。

砥石は小型であること、砥面の端部に研ぎの返りがあることから砥石に対して研ぐ対象物当てるのではなく、対象物に対して砥石を当てて使用したものと思われるが、砥面Ｂ面については長さ1.50cm～6.00cm、幅0.18cm、深さ0.15cmを測る４条の溝状研ぎ痕が認められる。これは、他の３面には認められないが、鋭利な切っ先等を研いだもの思われる。

### 3．鉄　器（挿図７．図版５）

（３）は刀子で１点出土した。刀子は茎部端を欠損しており、残存長14.5cmを測る。研ぎ減りが顕著に認められるが、切っ先部は尖り、関部は関が斜角に切れ込む片関で、全体に錆化が著しく錆膨れも切っ先部、関部、茎部に見られる。刀身長は8.5cm、刀身幅1.2cm、背幅0.4cmである。茎部幅1.0cm～0.5cm、茎背幅0.4cmを測る。




挿図７．出 土 遺 物

# 第Ⅵ章　　縁山４号墳発掘調査の成果

今回の発掘調査は、国道９号駟馳山バイパス建設に伴い、その計画路線上を平成15年度に試掘調査を実施した結果、大字湯山字白路ヶ山にその所在が確認された縁山４号墳の記録保存を目的した発掘調査である。

調査の結果、丘陵のほぼ頂部に１基の古墳が所在し、福部村では比較的大形に属する円墳で、昭和30年に確認されている縁山１・２・３号墳に次ぐ縁山４号墳であることが確認された。

縁山４号墳は、2/5程度が調査区外に所在し、その全体を発掘調査することはできなかったが、反面一部であるが現状保存できたことは幸いであった。また、当古墳の墳丘は農地への転用と思われる大規模な削平を受け手おり、墳丘内に所在していたであろう主体部等の遺構の検出至らなかったことは残念であった。

**墳　丘**

墳丘は丘陵が湯山池に突き出たそのほぼ先端部に所在し、縁山１・２・３号墳は更にその末端部に所在しているものと推定される。

縁山４号墳は、盛土が全て削平されていたが、幸いにも墳丘東の周溝面がほぼ築造当時のまま遺存しており、墳丘、周溝の規模を特定することができた。また、北西の周溝を意図的に掘残し、倉吉市の大山遺跡２号墳、高鼻２号墳等にその類例(註1・2)がある陸橋部の存在を本村で初めて確認することができた。

**出土遺物**

出土遺物は、削平された墳丘中央部検出された須恵器の坏蓋(1)と周溝内で検出された砥石(2)、刀子(3)の各１点で極めて少ない。

須恵器の坏蓋(1)は、天井部片であるが、後世行われた削平面の上面で検出されていることから撹乱を受けていることは間違いないと思われるが、近接する古墳がないことから縁山４号墳の築造に伴う須恵器であると考えてよかろう。砥石(2)は、北西の周溝底面で後述の刀子の上面に重ねられて検出された砥石で、研ぎ面の４面全てがよく使い込まれており、中央部の面の凹みが著しく、一面では鋭利な切っ先等を研いだ線状の痕跡が４条残る。刀子(3)は、前述の砥石の下で検出され、日常的に使用する砥石の下から検出されたことで、刀子を研いだ砥石とのセット関係にある可能性は高い。しかし、このようなセット関係にある砥石と刀子が周溝底面に置かれていることについては、今後の検討課題として譲る。

**築造年代**

築造年代を特定資料となる須恵器は１点で、しかも坏蓋の天井部片であり口縁部から肩部にかけて欠損していることから、この資料のみで築造年代を特定することは不可能であが、あえて復元の範囲での考察では比較的口径が大きく、天井部が高く丸みを持つ器形ではないかと思われる。

また、縁山４号墳の南に隣接し、昭和30年に発掘調査が行われた縁山１号墳では須恵器の坏蓋が４セット、２号墳では須恵器の坏蓋が１セット、有蓋高坏が１セットの出土が報告されており、この須恵器を根拠に古墳時代後期の前葉あたりを推定している。縁山４号墳を含むこれらの古墳では、狭い丘陵部でありながら築造にあたっての斬り合い関係は認められない。したがって、双方の古墳を意識して計画的に築造された古墳群の可能性があり、縁山４号墳も同時期に築造された可能性が高いと思われる。

註１．倉吉市教育委員会『大山遺跡発掘調査報告書』1989
註２．倉吉市教育委員会『高鼻２号墳発掘調査報告書』1982

## 編集後記

縁山１・２号墳の発掘調査では、当時の鳥取大学の学生であった先達の方々により献身的な調査が行われ、数多くの貴重な資料の報告がなされているが、残念ながら実見できる資料は、現在鳥取大学教育学部の付属図書館に保管されている織物が巻かれた鉄刀のみで、これを除く全ての資料が散逸している。

縁山４号墳の発掘調査では、出土遺物が極めて乏しく昭和30年の隣地で行われた縁山１・２号墳の発掘調査成果の報告と出土している資料を軽視することはできない。今回の報告で可能な限り参考とさせていただいたが、出土遺物については２号墳出土の織物が巻かれた鉄刀が実見でき、東京国立博物館文化財部保存修復課環境保存室長の澤田むつ代氏と同席のもとに実見、ご教示をいただいた。そこで、本報告の機会にその教示をいただいた観察結果についてその要約を次のとおり掲載させていただいた。

【観察結果】

（１）この大刀には、刀身部の鞘木の上に織物が２種類（Ａ・Ｂ）が確認できる。Ａは２層（ａは下層の鞘木に接しており、ｂはａの上にのっている）で、ａ・ｂとも織物は帯状に斜めに巻いたようになっている。さらにａ・ｂ２層の上に１層部分的にＢの織物が確認できる。

柄木には織物の痕跡が認められないこと、鞘口で巻き終わり処理と推察される箇所が確認されたので、鞘の部分のみ織物を巻いていたものと判断した。

（２）Ａは絹織物（平絹（へいけん））で１cm間の経糸と緯糸の糸込みは、経糸24～26本程度、緯糸12越（こし）前後（24～26×12）を数える。帯状の裂（きれ）の幅は、3.5～4.0cm度であろう。

（３）織物の経糸方向に細く裁断した帯紐状の平絹Ａを、両端の処理をしないまま（あるいは一方を織耳〈織物の両側の端の部分〉としていたか）、裁ち目の部分は裏側へごくわずか（0.5cm前後か）折り返して、鞘木の上から角度をつけて、少しずつずらしながら巻いている。なお、裁ち目の折り返しが重なった部分が稜となって見えている。おそらく鞘口から鞘尻に向かって巻き始め（鞘部分の左方は、鞘木に接した面の織物ａの経糸方向が、右上から左下になっており、右方の織物ｂは、左上から右下に変わっている）鞘尻に達したら、今度は巻く方向を変えて鞘口に向かって斜め50～60度程度の角度をつけて巻き戻り、鞘口近くになるにつれて、この帯紐の幅を狭めて鞘口で収まりよく終わるように調整している。帯紐の重なりは、表面に現れている広い所では3.5cm前後、狭い所では0.8cm前後となる。

（４）鞘木を平絹の帯紐で巻いた太刀を、さらに、Ｂの織物で包んでいたと推測される。この織物は、Ａより織り目が粗いが、樹脂により表面観察ができにくい状況で、組織り等は不明である。なお、経糸は強い右撚り（Ｓ撚り）がかかっているようで、織り目には隙間がある。

Ｂの織物の上に、鞘木の部分のみを巻いた太刀を、織物に対して約30度ほどの角度をつけて斜めに置き、両端を折り込むようにして太刀を包んだものと推測される。

## まとめ

縁山４号墳では、大規模な削平を受けていたことで、全てを満たす資料を得ることはできなかったが、前述観察結果の要約等から縁山古墳群の重要性が窺える。この古墳群で発見された古墳の全てが墳丘を削平されており、地表観察での所在確認はできないことから、近隣で地中に所在する更なる新発見の可能性がある。

また、隣接する直浪遺跡に居住していた古墳時代の人々との関係も当然考慮すべき位置関係にあることから、単純に限定した地域で検討することなく、広範囲に渡り比較検討を必要とする地区であると思われる。

最後に本調査にあたりご援助、ご協力いただいた多くの方々に感謝申し上げ、まとめとする。

# 報　告　書　抄　録

| | |
|---|---|
| ふりがな | えんのやま４ごうふんはっくつちょうさほうこくしょ |
| 書名 | 縁山４号墳発掘調査報告書 |
| 副書名 | |
| 巻次 | |
| シリーズ名 | |
| シリーズ番号 | |
| 編著者名 | 谷　岡　陽　一 |
| 編集機関 | 鳥取市教育委員会 |
| 所在地 | 〒６８０－００４７　　鳥取県鳥取市上魚町３９ |
| 発行年月日 | 西暦２００４年１２月２４日 |

| 所収遺跡名 | 所在地 | コード 市町村 | コード 遺跡番号 | 北緯 °′″ | 東経 °′″ | 調査期間 | 調査面積 ㎡ | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 縁山４号墳（えんのやま ごうふん） | 鳥取県鳥取市福部町湯山字白路ヶ山（とっとりけん とっとり し ふくべ ちょうゆやま しらじ が やま） | 31033 | 225 | 35度<br>32分<br>49秒 | 134度<br>15分<br>48秒 | 2004.06.08<br>～<br>2004.11.30 | 425㎡ | 国道９号<br>駟馳山バイパス |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 縁山４号墳 | 古墳 | 古墳時代 | 古墳の周溝 | 須恵器<br>砥石<br>刀子 | |

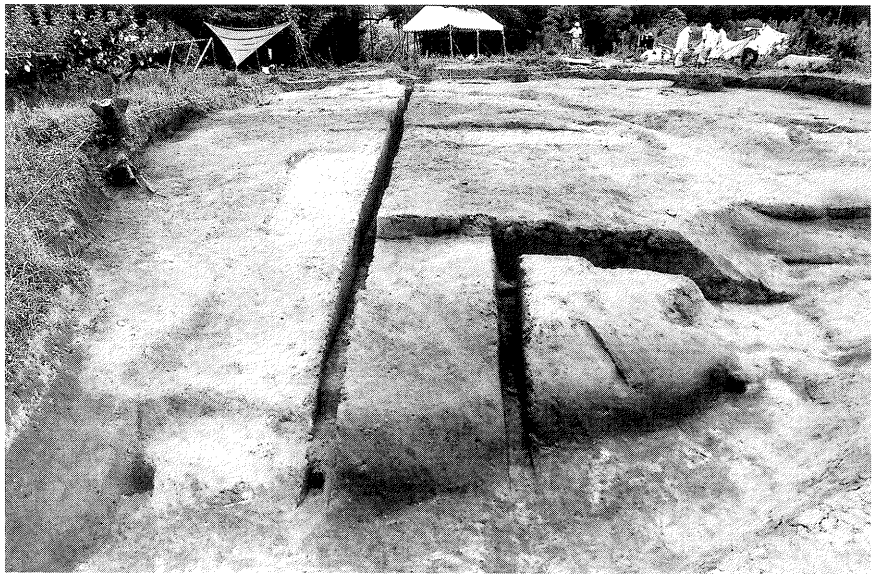
# 図　版　編

図版 1

① 調査地全景（北から）

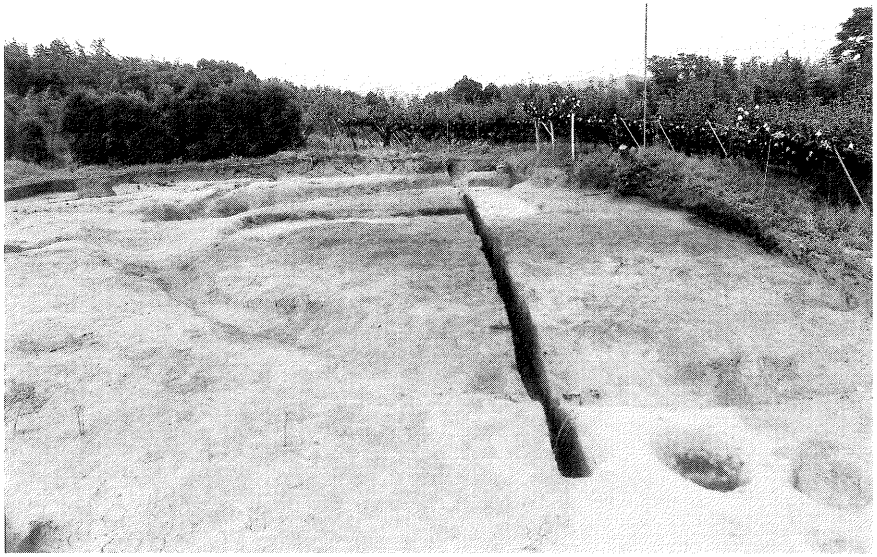
② 調査前の縁山４号墳

③ 縁山４号墳より西方の鳥取砂丘を望む

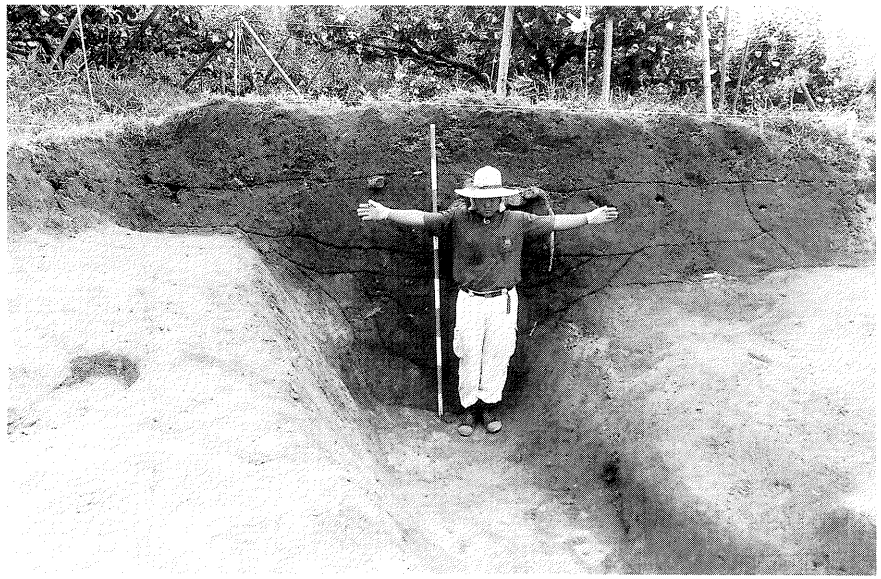


① 縁山４号墳（東から）

② 縁山４号墳（北から）

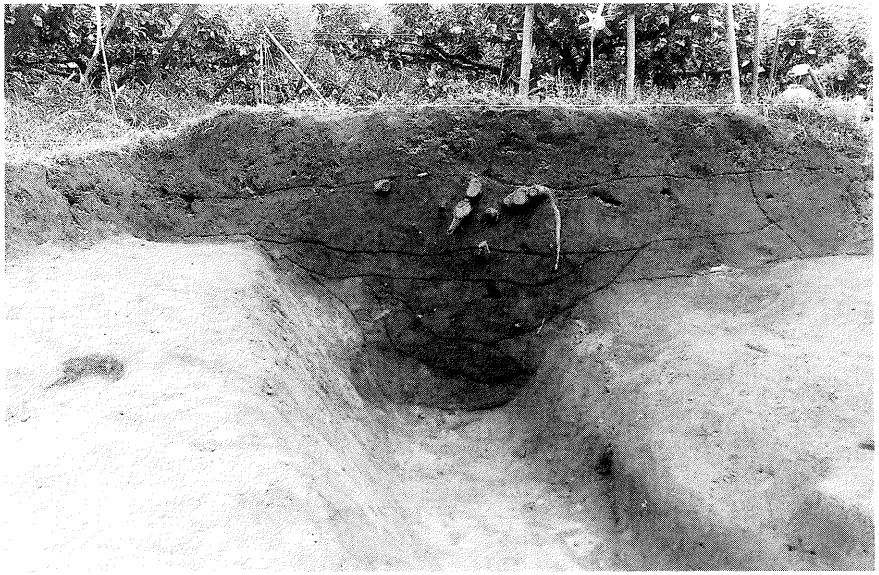


③ 縁山４号墳（西から）

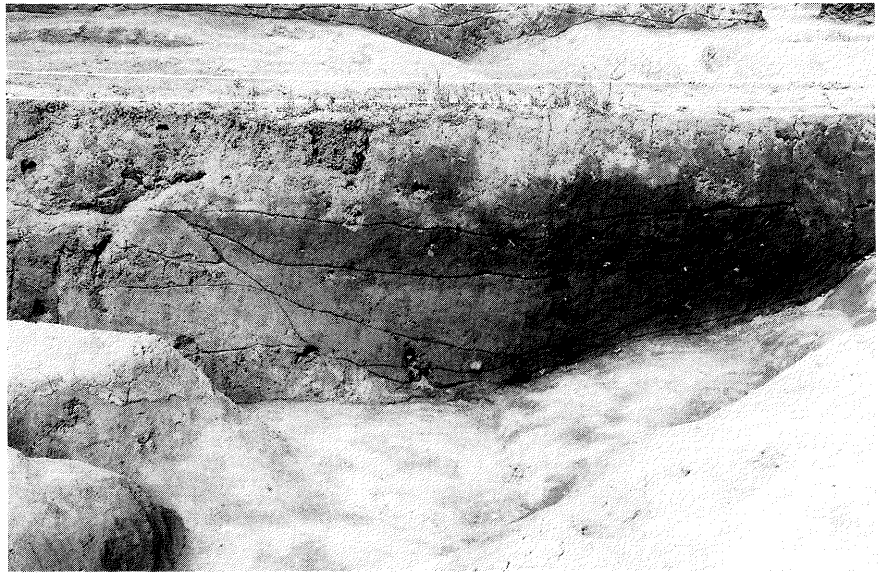


④ 縁山４号墳東周溝完堀状況（北から）

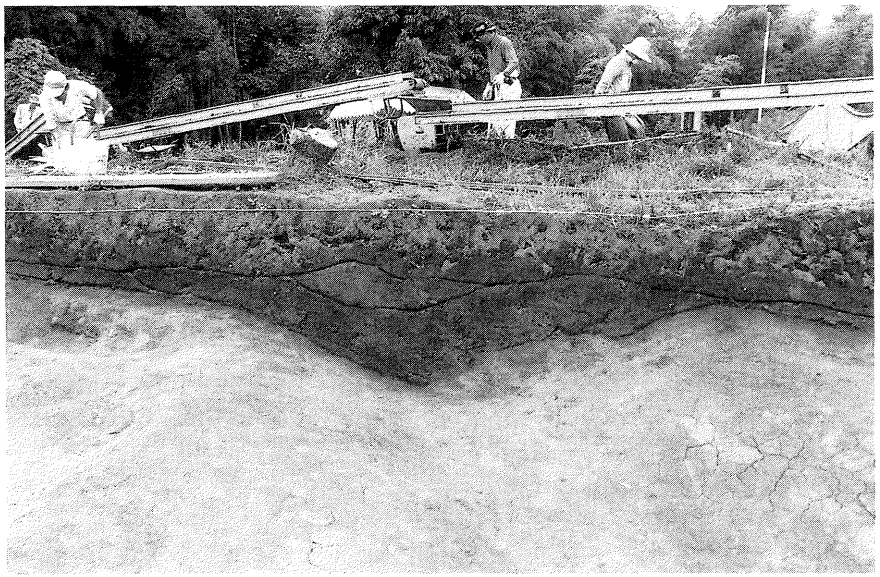
図版２



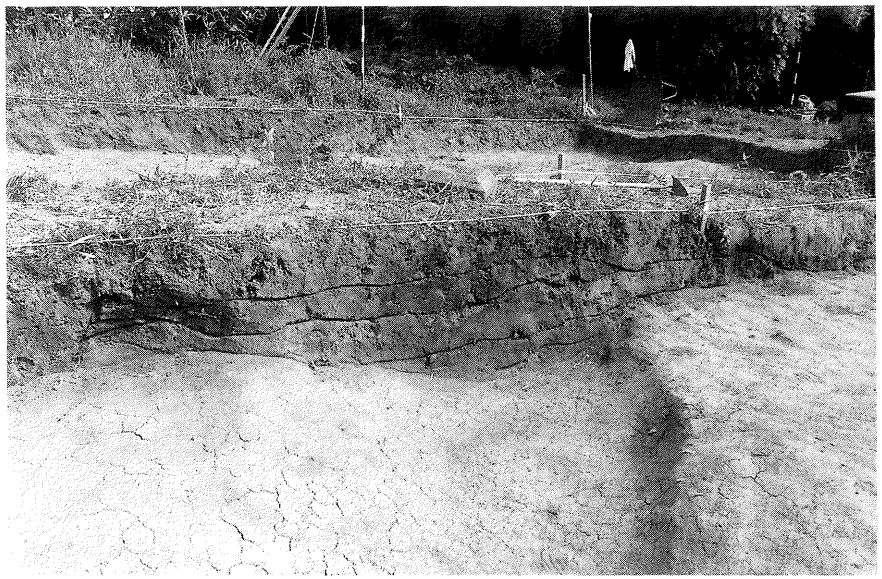
① 縁山４号墳東周溝面と土層堆積状況（北から）



② 縁山４号墳北周溝面と土層堆積状況（東から）



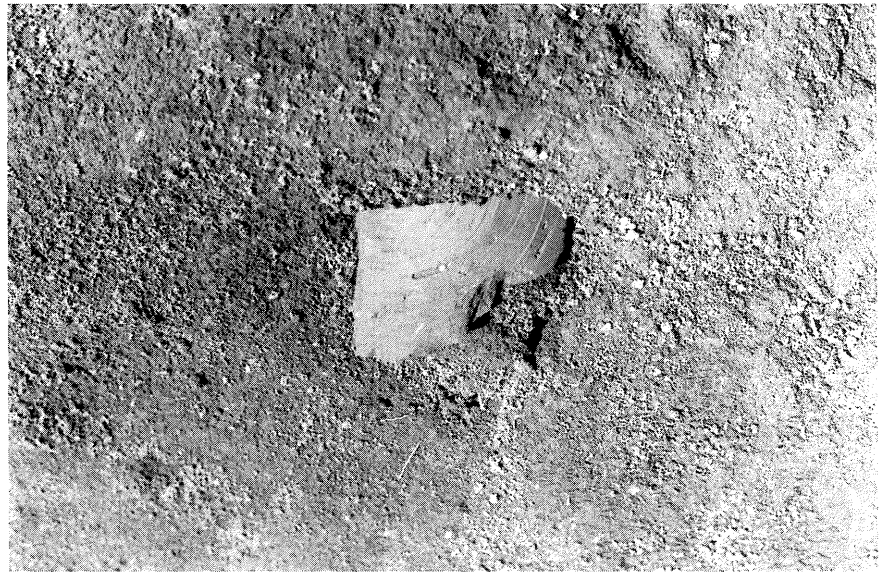
③ 縁山４号墳北西周溝面と土層堆積状況（東から）



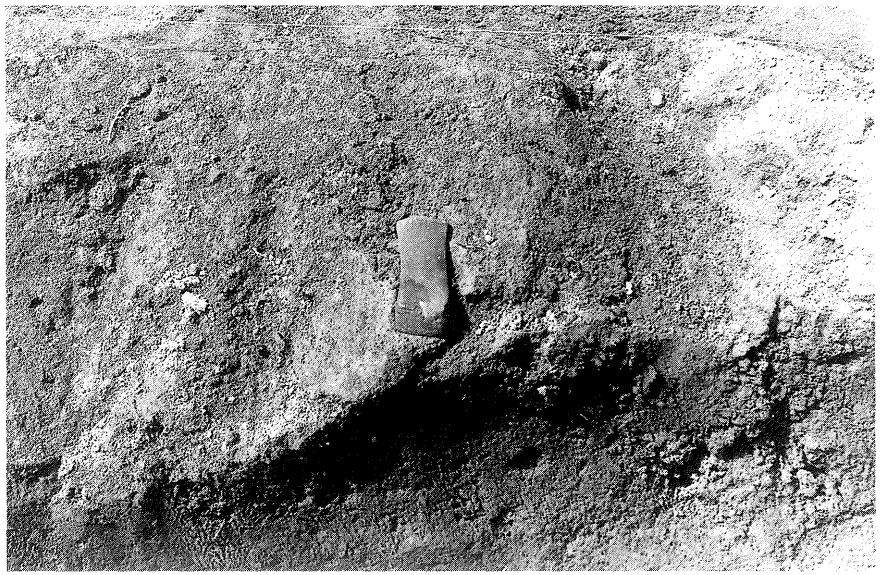
④ 縁山４号墳西周溝面と土層堆積状況（北から）

図版３

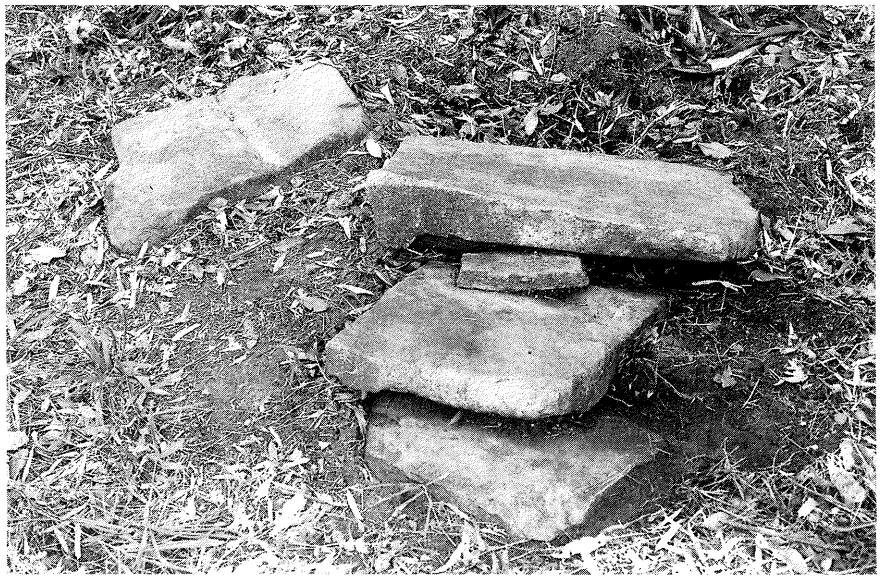
① 縁山４号墳陸橋部（北西から）



② 出土遺物検出状況（墳丘中央）

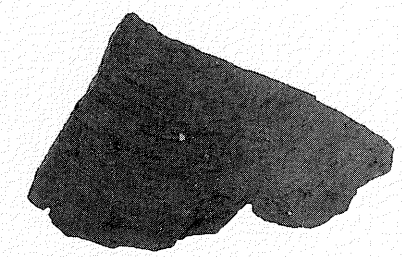


③ 周溝内砥石検出状況

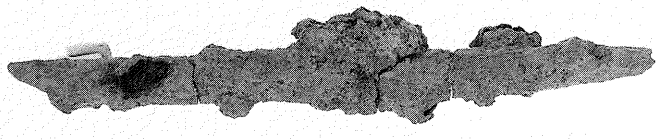


④ 昭和30年に発掘された縁山古墳石棺の蓋石

図版４



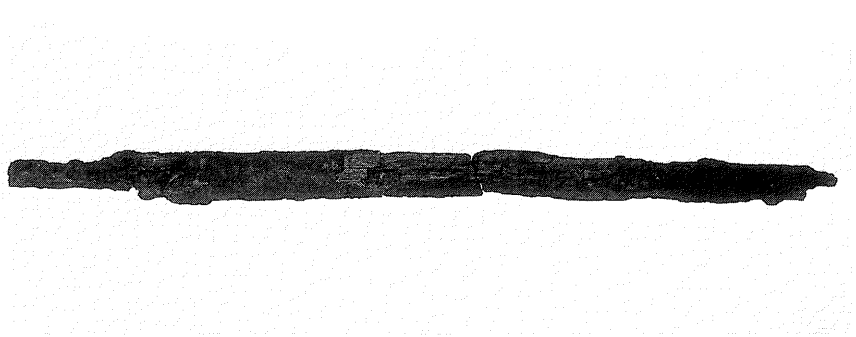
① 縁山４号墳出土遺物（須恵器）



② 縁山４号墳出土遺物（刀子）

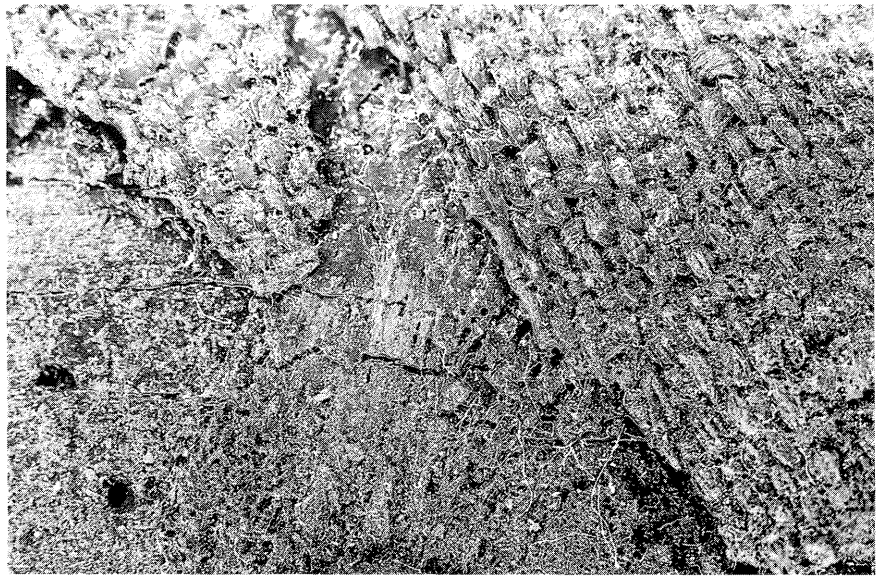
③ 縁山４号墳出土遺物（砥石）

① 縁山２号墳主体部（昭和30年発掘調査状況）



② 縁山２号墳出土の鉄刀（昭和30年出土）

③ 縁山２号墳出土の鉄刀に巻かれた織物（昭和30年出土）



④ 縁山２号墳出土の鉄刀に巻かれた織物（拡大）（昭和30年出土）

図版６

**縁山４号墳発掘調査報告書**

平成16(2004)年12月発行

編集　鳥取市教育委員会
発行　〒680-0047　鳥取県鳥取市上魚町３９
TEL (0857) 22－8111

印刷　綜合印刷出版株式会社
〒680-0022　鳥取市西町１丁目215番地
TEL (0857) 23－0031